



〈連載52〉

「フェリーおおさか」に乗る



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

2月中旬、大阪空港から長崎への飛行機に乗込んだ。佐世保にある西日本流体技研という研究所を訪れるためである。飛行機に乗っていたのは1時間半。長崎空港から佐世保までバスで約1時間強。さらにそこからタクシーで30分ほど行った小佐々工業団地の中にこの会社がある。日本の造船業界の中でもユニークな存在である同社は、造船不況の真っ只中に佐世保重工を退社した若い技術者が中心となって設立した研究・コンサルタント会社で、主に回流水槽を使った実験や技術指導を行なっている。会社内にある7つもの回流水槽が船の性能試験などの顧客のニーズに適切に対応してくれる他、実験用回流水槽の建設、実験機器の製造、模型船の製造なども行っている。この他、ユニークなのは、回流水槽技術を応用した美容装置、リハビリ用医療機器から、活魚飼育水槽や活魚運搬用コンテナ、海中ロボットまで船舶分野だけでなく幅広い分野にその技術を活用していることである。給料体系も年俸制としているとか。とにかくスタッフのやる気をうまく引き出して成長を続ける会社である。日本には、大手造船所の研究所や一部の公立研究所を除くと、こうした技術コンサルタントまでやっている水槽施設を持った船舶関係の研究所はほとんどなかっただけに、ユニークで貴重な存在として注目を集めている。

この時訪れた目的は、共同研究を進めているあるブイ・メーカーの実験を見学するためであった。潮流および波の中で地質調査用のブイの運動を極力小さくするのがその目的で、3日間同研究所の水槽を借りて実験を繰り返した。

さて、実験の見学もほぼ終了まぎわになって、どうやって大阪まで帰るかを思案した。できれば、瀬戸内海に新しく就航した名門大洋フェリーの新造カーフェリー「フェリーおおさか」に乗船してみたい。ちょうどこの日の夜8時に同船が新門司出港の予定であることは調べてあった。しかし、それまで多少時間がある。研究所のスタッフと話していると、平戸～博多間のジェットフォイル「ビートル」はどうかということになった。ビートルを博多で降りて、陸路新門司までつければ「フェリーおおさか」の出港時間には間に合いそうだ。これこそ「船ファンの究極の帰り方」と一人悦に入った。飛行機で1時間半で来た所を約18時間かけて行くのだから、普通の人にはお勤めできないかもしれないが、これこそ贅沢な時間の過ごし方なのである。

佐世保から 平戸へバスで約1時間。ひさしぶりに見る平戸の城が美しい。国鉄の切符売場で

博多までの乗船券を買い、岸壁に出て入港してくる「ビートル」を待つ。オランダ村を出た真黒な姿の「ビートル」が沖に姿を見せ、時速80キロの高速で港へと近付いてくる。ファインダの中でグングン大きくなる同船に夢中でシャッターをきる。しかし、なんとも変った色彩の船である。軍艦のイメージのようにも見えるが、真黒なのでそれよりは多少モダンな感じもする。着岸した同船に乗込むと、船内は黒と金を基調としたなかなかユニークなインテリア。航空機のような座席の他にスナックコーナーもあり、船らしいゆとりもある。

出港してすぐにスピードが増し、艇体が浮上する。船室内のスピード計は時速80キロの表示を示している。やはり「ノット」はこの船には似合わないのであろうか。船のファンとしては一寸さびしい感じもする。約1時間半で船は博多港に到着。ウォーターフロントの再開発がなされたなかなか洒落た建物の前の岸壁に無事到着した。

新幹線で 小倉へ移動し、さらに列車で門司へ着く。大洋フェリーの連絡のバスまで40ほどあったので、駅前の赤ちょうちんに入って一杯ひっかける。もつ鍋と熱燗がうれしい。船の中で食べて飲もうと思っていたが、ついここで酒が進んでしまった。7時に連絡バスがやってきた。20名ほどの乗客を乗せて山を越え、新門司のターミナルへと向う。暗い闇の中に煌々と灯りをつけた「フェリーおおさか」の姿が突然浮んできた。心がうきうきしてくるのがちょっと恥ずかしい。

乗船券を購入して乗込む。奮発して特等を一人使用として使う。料金は大人料金の1.5倍。入ったキャビンは応接セットも広々とした立派な部屋。ただ、風呂の造りは日本の習慣も勘案したやや中途半端なもので、すっきりと最近のホテルのような洋風にするほうが良かったようにも思う。ひと風呂浴びた後、船内を散策。ロビーは比較的広く、最近のフェリーではやりの吹きぬけ構造。8時に船は静かに岸壁を離れて大阪に向う。カフェテリ



ビートル

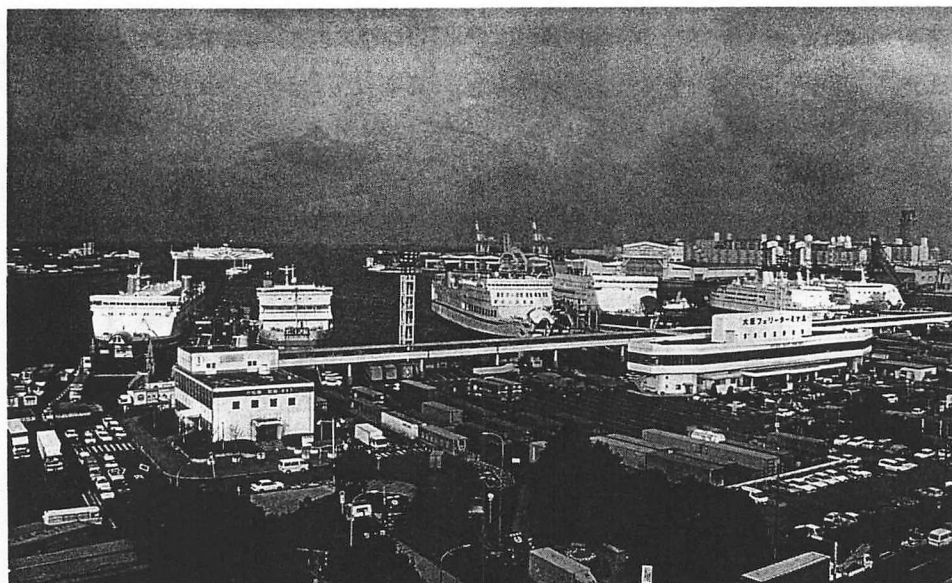
ア式のレストランでつまみを一つだけとってビールを一杯。レストランは結構人で溢れている。

一夜明けると船は明石海峡を通過し、神戸沖を大阪南港に向けて走っている。朝の大阪南港はカーフェリーのラッシュである。高知、北九州、

南九州、四国から続々とカーフェリーが到着する。このフェリーターミナルの向いにあるビルの8階のレストランで朝食をとった。ここからはフェリー基地の様子が一望できる。



レストラン
フェリーおおさか



大阪南港のフェリー群（右から3隻目がフェリーおおさか）